

令和6年度 第1回湧別町ゼロカーボン推進協議会 会議録

開催日時	令和6年7月29日（月） 14時00分 開会 15時55分 閉会
開催場所	上湧別コミュニティセンター 2階大会議室
出席委員等	刈田・清水・長屋・三橋・奥村・小幡・毛利・北村・三瓶・安達・菅原・今各委員、落合北海道大学特任助教（オブザーバー）
欠席委員等	平田・藤本各委員
事務局職員	パシフィックコンサルタンツ（株）雨嶋室長・高木氏（計画策定業務受託者） 企画財政課：井上課長、齊藤主査、佐藤主査
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 会長挨拶 4. 自己紹介 5. 副会長の指名について 6. 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) ゼロカーボン推進協議会の設置及び地球温暖化対策実行計画の策定について (2) 地球温暖化対策実行計画策定スケジュールについて (3) 地球温暖化対策実行計画策定業務の進捗状況について (4) アンケート調査について 7. その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 次回協議会の開催について 8. 閉会
会議の公開	公開
傍聴人の数	0名
提出資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1：ゼロカーボン推進協議会の設置及び地球温暖化対策実行計画の策定について ・資料2：地球温暖化対策実行計画策定スケジュールについて ・資料3：湧別町ゼロカーボン推進協議会業務計画及び進捗報告 ・資料4：町民アンケート調査票

	・資料5：事業者アンケート調査票
会 議 録	<input type="checkbox"/> 有 （ <input type="checkbox"/> 全文筆記 <input type="checkbox"/> 要点筆記 ） <input type="checkbox"/> 無
そ の 他	

1. 開会 井上課長
 2. 委嘱状交付
 3. 会長挨拶 刈田町長
 4. 自己紹介
 5. 副会長の指名について 小幡委員を副会長に指名
 6. 議題
 - (1) ゼロカーボン推進協議会の設置及び地球温暖化対策実行計画の策定について
齊藤主査より資料に基づき説明。質疑なし。
 - (2) 地球温暖化対策実行計画策定スケジュールについて
齊藤主査より資料に基づき説明。質疑なし。
 - (3) 地球温暖化対策実行計画策定業務の進捗状況について
パシフィックコンサルタンツ（株）より資料に基づき説明。
- ・エネルギー消費量・二酸化炭素排出量の按分法について
- 雨嶋) 北海道のエネルギー消費統計から按分して算出しているため、実際のものとは異なる。
- 刈田町長) 実際の消費量は大体下がるのか。
- 雨嶋) 実際の消費量を算定した場合、按分法の倍ぐらいになっているところもある。大規模な林業機械を使い燃料を消費している例や、大型リゾート施設があり按分法より増えている例もある。
- 落合アドバイザー) 排出量は実際に見えないものであり、実感が湧かない。ゼロカーボンと言われてもみんなの生活から遠いものとして考えているのではないか。まずは、アンケート調査や勉強会を開催し、みんなの身近なものとしてゼロカーボンについて知ることが大切である。ゼロカーボンの真の目的は持続可能なまちづくりのためのきっかけとしてほしいという考えである。どういう町にしていくかを考えるそういう協議会とする必要がある。
- 刈田町長) 森林による吸収分もあるのでは。森林吸収量がかなりあると考えられるので、それだけでゼロカーボンを達成できるのではないか。
- 雨嶋) 森林吸収量については今後提示する。ただ、それ以外にどういうことができるか検討していきたい。
- 落合アドバイザー) 温室効果ガスは二酸化炭素だけではないので、二酸化炭素以外を考えると吸収量が上回ることはないと思う。将来に向け、前向きに施策を検討してほしい。
- 刈田町長) 今回の計画策定に合わせ、いろいろなことを考えていかなければならない。

(4) アンケート調査について

パシフィックコンサルタンツ（株）より資料に基づき説明。

委員) アンケートは紙ベースか。若い世代のことを考えWEBで回答できないか。

雨嶋) 事務局とWEB回答を取り入れることを検討する。

委員) 2050年までとかなり長い計画であるので、短期間の2・3年でできること、長期にわたるものをこのアンケートで詳しく聞かないと計画が立てられないのでは。

落合アドバイザー) 短期的にできるものであれば、現状の技術を使いできることを計画に反映させ、長期的に考えなければならないものはメニュー出して短期と長期を捉えて計画を立てている自治体もある。

委員) 森林を伐採して太陽光発電を作ることについて、どのように考えられるか。

雨嶋) 森林の吸収量がなくなる代わりに太陽光で発電することになるのだが、それ以外にもいろいろな問題がある。それを踏まえたうえで検討していくことが必要である。

委員) ブラックアウトのときに紋別のバイオマス発電所で発電しているので近隣の施設は電力が使えるかといえば、全量売電しているので使えない状況であった。バイオマス発電所で発電している分を自分たちが利用できないか。そうすれば、身近なものとして認識できるのでは。

刈田町長) それができれば一番いいのだが、建設費も償還しなければならないので、売電する必要がある。マイクログリッドというエリア内でエネルギーを使う仕組みを作っていければいいのだが、街中にバイオマス発電所を作るわけにはいかない。

委員) 系統を切り離してそこで発電している電気を使う試みもあるが、発電の需要と供給をコントロールする必要がある。

落合アドバイザー) 一つの方法で解決するわけではなく、バイオマス発電にもいくつかのパターンがある。いろいろなオプションがあるので組み合わせで作っていくというのが大事だと思う。

7. その他

(1) 次回協議会の開催について

令和6年10月中旬を予定

落合アドバイザー) この協議会をまちづくりについて考える場としたいと考えている。この計画は今までの計画と違い3年後になんとかできればいいとかではなく、ずっと続く話である。変化する時代に合わせ改訂などを行い

ながら、ゼロカーボンという切り口からまちづくりを考えていく協議会として進められたらいいと思う。

刈田町長) ゼロカーボンの達成と合わせ、循環型社会をどうやって作っていくかも一つの目的となると考えている。よろしくお願いします。